

目次

■ 富士通ゼネラルグループについて

1. 目次／編集方針
2. 企業理念
3. CEO・CTrO メッセージ
5. 価値創造のプロセス
6. 価値創造の歴史
7. At a Glance

■ 事業戦略

9. 富士通ゼネラルグループの事業
10. 空調機部門（実績・計画）
11. テックソリューション部門（実績・計画）

■ 持続可能な社会への貢献

13. サステナビリティの位置づけ
／事業活動とサステナビリティの繋がり
14. サステナビリティの推進
／マテリアリティの特定
15. マテリアリティ
16. 人材マネジメント
17. 特集① カーボンニュートラル
18. // ② 人権

■ ガバナンス

20. コーポレートガバナンス
22. 役員報酬
23. スキル・マトリックス
／取締役会での監督
24. 役員紹介
26. 資本市場との対話
27. コンプライアンス
28. リスクマネジメント

■ データ

30. 財務ハイライト
31. 非財務ハイライト／主な外部評価
32. 10年間の財務サマリー
33. 会社情報／グループ情報
34. 株式情報

編集方針

統合報告書では、投資家を始めとした様々なステークホルダーの皆様に、当社グループの財務・非財務情報をお伝えして理解を深めていただく事を目的に、業績・成長戦略・サステナビリティ・ガバナンスの取り組み等の情報を中心に説明しています。

報告対象期間	2023年度（2023年4月1日～2024年3月31日） ただし、一部はそれ以外の期間の内容も含まれます。
報告対象組織	株式会社富士通ゼネラルおよびその連結子会社
発行	2024年12月（次回予定：2025年10月）
お問い合わせ先	コーポレートコミュニケーション室、サステナビリティ推進部

* 本報告書の一部または全部を許可なく転載することを禁じます。

◇「ノクリア」は株式会社富士通ゼネラルの登録商標です。

◇「AIRSTAGE」は株式会社富士通ゼネラルの登録商標です。

■ 情報開示体系

	Web サイト	冊子またはPDF		
財務情報	IR情報ページ 	有価証券報告書 	決算短信 	統合報告書 (本紙)
非財務情報	サステナビリティ情報ページ 	サステナビリティデータブック 		

■ 将来に関する予測・予想・計画について

本報告書には、富士通ゼネラルグループの過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これらの予測・予想・計画は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって将来の事業活動の結果や事象が異なるものになる可能性があります。読者の皆さまには以上をご承知いただきたくお願いいたします。

企業理念

FUJITSU GENERAL Way

FUJITSU GENERAL Way は、私たち富士通ゼネラルグループが持続的に発展する上で、土台となる基本指針であり、当社が目指すべき姿と、お客様と社会のために果たすべき使命、存在価値を表すものです。また、富士通ゼネラルグループで働くすべての人が行動する上で、判断の拠り所となる羅針盤です。

私たちは、企業理念に掲げたミッションを達成するための行動を実践し、事業を通じて、快適・健康・安心・安全な社会の実現、その先にあるいのちを見つめ、世界中の人々と共に未来を切り拓いてまいります。

FUJITSU GENERAL Way の体系

FUJITSU GENERAL Way は企業理念、行動規範の二層から成り立っています。

FUJITSU GENERAL Way

Our Mission

私たち、富士通ゼネラルグループが目指すべき姿を宣言したものです。

共に未来を生きる

私たちは革新的なモノづくりを通じて、世界中のお客様と社会のために、安らぎに満ちた、今日にない明日を届けます。

企業理念

Our Philosophy

Our Mission を実現するために、私たちが大切に考える考え方を示したものです。

自発的に取り組みます

私たちは、自己成長のための努力を惜まず、たゆまぬ創意工夫と先見力で、自ら新しい事に挑戦します。

人を思い活かします

私たちは人を思いやり、異なる文化と多様性を活かし、協調と対話を通じて、人の可能性を最大化します。

誠実さを大切にします

私たちは、誠実さを旨とし、常に高い倫理観を持って、人として正しい道を歩みます。

行動規範

富士通ゼネラルグループの社員として厳守すべきことを表したものです。

- 人権を尊重します
- 法令を遵守します
- 公正な商取引を行います
- 知的財産を守り尊重します
- 機密を保持します
- 業務上の立場を私的に利用しません

CEO (Chief Executive Officer) ・ C T r O (Chief Transformation Officer) メッセージ

「Creating a Life Conditioner」で、未来の子供たちの笑顔や地球環境という " 全ての LIFE " を守り続ける

2024年4月に副社長として富士通ゼネラルグループの一員に加わり、6月よりCEOに就任いたしました。

私が入社以来感じている点が、富士通ゼネラルグループのポテンシャルの高さです。社員が伝統として持ち合わせている誠実さのほか、長年培ってきた技術力や世界中のお客様から得られている信頼など、当社には大切な財産があると考えています。一方で、この会社の収益性の向上が最大の課題であると認識しています。この収益性をいかに高め、持続可能な成長を実現していくかが、私の重要な使命であると考えております。

■ 富士通ゼネラルの目指す姿

富士通ゼネラルの目指す姿 FUJITSU



Creating a Life Conditioner

私たちが支え、守り続けて行くのは大切な人や家族の快適。
そして、今や災害とも言える猛暑や寒波からの健康と街や地域を支えるサステナブルでウェルビーイングな暮らしです。

未来の子供たちの笑顔や地球環境という
" 全てのLIFE " を守り続けたい。

私たちは Air Conditioner を作ることから
Life Conditioner を創造していきます。

2024年10月の決算説明会において、当社が目指す姿「Creating a Life Conditioner」を新たに掲げました。

空調機、すなわち Air Conditioner をつくることから、サステナブルでウェルビーイングな暮らしを

届け、Life Conditioner を創造していく。これを次の富士通ゼネラルの目指す姿であると定義しています。

当社が得意とする空調機事業では、エネルギー効率の高い製品やCO₂排出削減に貢献する技術を開発し、単なる冷暖房にとどまらず、健康や生産性の向上といったウェルビーイングの価値を提供していきます。また、災害や防災に関わるテックソリューション事業では、安全を守るだけでなく新たな



CEO (Chief Executive Officer) ・ CTrO (Chief Transformation Officer) メッセージ (続き)

付加価値を創造し、生活環境全般にわたる支援を広げていきます。

当社の強みである、世界初・業界初を創出してきた「モノづくり」、ヒートポンプやインバーター、通信といった「テクノロジー」、世界 100 カ国以上へ展開する「グローバルチャネル」を活かし、「Creating a Life Conditioner」を実現してまいります。

2024 年度の位置付け

当社の目指す姿の実現に向け、冒頭で申し上げた高収益化に向けた施策の実行が重要です。その第一歩として、2024 年 10 月に社内の組織体制を再編成いたしました。

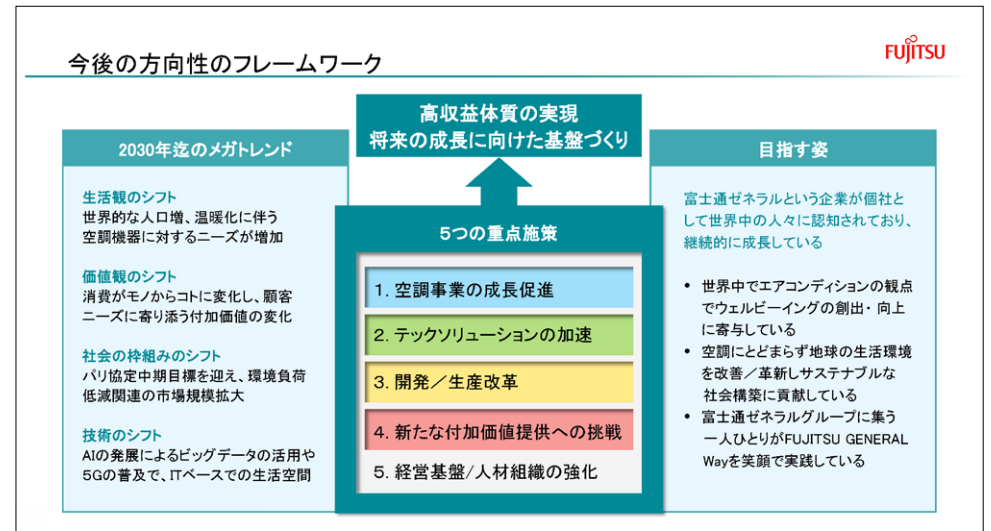
具体的には、従来複数に分かれていたビジネスラインを「空調機」と「テックソリューション」の 2 部門に集約しました。空調機部門長の川西副社長、テックソリューション部門長の長谷川副社長が、それぞれのビジネス全体の責任と収益責任を一手に担うとともに、TrO (Transformation Officer) として各部門の変革をリードする体制としています。また、従業員全体の意識改革の推進を支える TrO として、経営基盤 (大河原専務)、事業基盤 (有門専務) 人材戦略 (中川常務) を任命し、CTrO (Chief Transformation Officer) である私がグループ全体の変革の責任を担う体制を整えました。

また、新体制における高収益性の確立に向け、海外も含めたグループ全体での大きな横断プロジェクトを立ち上げました。課題を徹底的に拾い上げるとともに、それに対する施策について洗い出しを進め、取り組んでおります。



一方で、今後の高収益性に向け、2024 年度で解決しておかなければならない様々な課題もあり、損失等を伴う戦略的費用として 2024 年 10 月第 2 四半期決算で一括処理をしています。これは、来期以降に向けて大きく飛躍するための準備という意味も込めています。

今後のフレームワーク・重点課題



目指す姿でご説明したとおり、空調機を基盤としたウェルビーイングを実現していきながら、それに留まらない Life Conditioner という役割を達成していく。富士通ゼネラルグループに集う一人ひとりがその意識を持ち、高収益体質の実現および将来の成長に向けた基盤づくりを進めてまいります。

実現に向けた重点施策として、「1. 空調事業の成長促進」「2. テックソリューションの加速」は当社の主軸であり、選択と集中をしながら徹底的に取り組んでいきます。次に、これらを実現するための「3. 開発・生産改革」も非常に重要です。特に現地生産の推進は重点課題であると考えており、できるだけ早く生産体制を構築していきます。そして、これらを基盤とした「4. 新たな付加価値提供への挑戦」が、最終的な Life Conditioner の完成形となります。「5. 経営基盤 / 人材組織の強化」は、これらを実行していくための経営基盤であり、最も重要である我々自身の変革となります。

重点施策の推進により、高収益な会社に変革させるとともに、当社の目指す姿に向けて邁進してまいります。これからも皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

価値創造のプロセス

富士通ゼネラルグループ企業理念「共に未来を生きる」の実現

インプット

富士通ゼネラルの強み



モノづくり

世界初・業界初を創出



テクノロジー

ヒートポンプ/インバーター、通信技術



グローバルチャネル

世界 100 カ国以上への展開

アウトプット

サステナブルな商品・サービス

空調エコロジー

- ・製品 CO₂ 排出量削減
- ・省エネ監視 / コンサル
- ・資源循環事業

空調サービスソリューション

- ・エネルギー管理プラットフォーム
- ・空調ライフサイクルサポート



ウェルビーイングソリューション

- ・健康につながる快適性追求
- ・空気質モニタリングシステム

防災ソリューション

- ・消防向けドローン活用
- ・消防 / 防災システム DX
- ・感染症予防

アウトカム

Creating a Life Conditioner

私たちが支え、守り続けて行くのは大切な人や家族の快適。
 そして、今や災害とも言える猛暑や寒波からの健康と街や地域を支えるサステナブルでウェルビーイングな暮らしです。



価値創造の歴史

■ 革新的なモノづくりの歩み

富士通ゼネラルグループの企業理念では「-共に未来を生きる-私たちは革新的なモノづくりを通じて、世界中のお客様と社会のために、安らぎに満ちた、今日にない明日を届けます。」と掲げています。私たちはこれまでも、世界初の先進的な製品・技術を数多く生み出し、お客様と社会と共に歩み成長してきました。これからもグローバル社会の一員として、幸せな毎日を過ごすための革新的なモノ・コト・サービスを世界中に送り届ける企業を目指すとともに、快適・健康・安心・安全な社会を実現し、その先のいのちを見つめ、世界中の人々と共に未来を生きていきます。

○創業



○日本初：国産テレビスタジオ副調整装置を日本放送協会に納入

○日本初：テレビ水平帰線消去方式を開発

○業界初：換気装置を内蔵したスプリット形クーラーの生産を開始

○世界初：電子式キャッシュレジスターを開発



○世界初：ヒートパイプ原理による霜なし急速冷凍装置を搭載した冷凍冷蔵庫発売



○世界初：フィルター自動清掃機能を搭載した新形態エアコンを発売



○世界初：2種類の気流が新しい快適を実現したデュアルプラスター搭載エアコンを発売



○業界初：熱交換器を加熱除菌するエアコンを発売



○身につけるエアコン (CÓMODO GEAR) を発売

○日本初：「デジタル消防救急無線 (SCPC方式) システム」消防局へ導入

○豪雨や騒音下でも聞き取りやすい防災無線放送の新技术 (SIAFOLS) を開発

○世界初：エアコン用アキシアルギャップ形ファンモーターを開発

○業界初：タッチスクリーン方式消防救急指令装置を開発

○日本初：トランジスタ化フィルムカメラ装置を日本放送協会に納入

1930年代

1940年代

1950年代

1960年代

1970年代

1980年代

1990年代

2000年代

2010年代

2020年代

■ 革新的なモノづくりに向けた主な活動 (2020年代)

□ 暑熱環境下で働く方向けの、身につけるエアコン **CÓMODO GEAR** を開発 (国内向け)

気候変動により夏の暑さがさらに厳しくなる中、炎天下や空調が届かない環境で作業を行う業種の方に向け、首に装着することで頸部を冷やし、快適性や作業効率を高めるウェアラブルエアコン「CÓMODO GEAR」を開発しました。

□ マルチポジションタイプの全館空調方式エアコンを共同開発 (北米向け)

当社と戦略的パートナーのリーム社は、両社の技術を融合することで、コンパクトな室外機でありながら大容量、かつ業界トップクラスの省エネ性能を持つ、マルチポジションタイプの全館空調方式エアコンを共同開発しました。

□ 豪雨や騒音下でも聞き取りやすい防災無線放送の新技术を神戸大学と共同開発 (国内向け)

季節や天候などの変化に合わせた強調アルゴリズムの適用で、防災行政無線放送をより確実に伝達する新技术「SIAFOLS (サイアフォルス)」を開発、避難情報などの聞き取りやすさを向上することで、地域住民の安全確保に貢献します。

□ TCFG を完全子会社化 (タイ)

空調機事業の基盤強化に向け、コンプレッサーの製造・販売を行う持分法適用関連会社 TCFG Compressor (Thailand) Co., Ltd. の株式を追加取得し、完全子会社化しました。



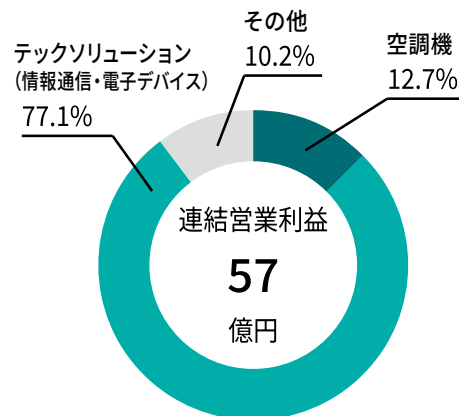
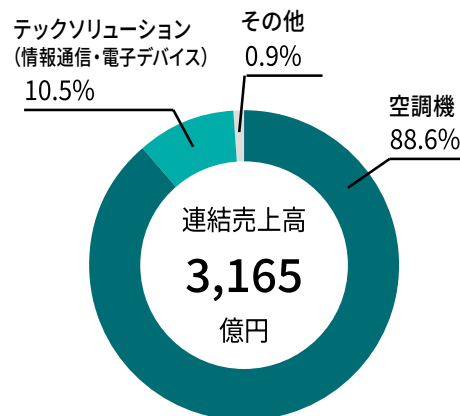
At a Glance (2023 年度実績)

■ 事業の経過およびその成果

当連結会計年度におきましては、国内向け空調機および情報通信システムの売上は増加しましたが、海外向け空調機の減収が大きく、連結売上高は3,164億7千6百万円（前期比14.7%減）となりました。

損益につきましては、コストダウンの進展や素材価格などコスト環境の好転はあったものの、流通在庫圧縮を目的とした海外向け空調機の出荷抑制に伴う減収影響が大きく、営業利益は57億4千7百万円（前期比61.9%減）となりました。経常利益は、円安の進行など為替変動に伴う為替差益の計上により143億7千5百万円（前期比17.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損失として独禁法関連損失などを計上したことなどから、30億6千7百万円（前期比64.7%減）となりました。

■ セグメント別構成



■ その他の状況

- ・ 経常利益 144 億円
- ・ 親会社株主に帰属する登記純利益 31 億円
- ・ 総資産 2,756 億円
- ・ 自己資本 1,387 億円
- ・ 自己資本比率 50.3%

■ 地域別構成 (売上高)

